

初版刊行から15年、  
最新の研究成果で全面改訂

信長政権を支えた家臣1458人を網羅!

谷口克広著

最新の研究成果を盛り込み、  
全面改訂した待望の第2版。  
信長に仕えた家臣1458人を網羅し、  
新収録の人名はもちろん、  
再録や重複などを修正した人物まで、  
典拠史料を徹底的に吟味し詳細に解説。  
豊富な史料や信長研究に役立つ  
膨大な参考文献を付載する。  
家臣の多彩な顔ぶれと、  
信長の人脈の全貌を知ることが  
できる画期的辞典。

定価7875円 (税込)

菊判・上製・函入

566頁

978-4-642-01457-1

第2版

# 織田信長 家臣人名

# 辞典

吉川弘文館

ここが違う【第2版】

信長に仕えたすべての家臣1458人を網羅。

新出史料(文書)など、初版刊行後の研究成果をふまえた全面改訂。

新規収録人名のほか、「これまで別人とみられていたが同一人物であった」など、修正を加えた人物も多数。

典拠となる史料を明記し、正確な記述に徹した信頼できる内容。

豊富な史料や信長研究に役に立つ膨大な参考文献を付す。

史料集、地方史、地誌・人物誌、日記・紀行・年代記、文書影写本、家譜・家伝・系図、戦記、図録、他の編纂史料、参考図書、著書・論文など。

ほ

泊々部某(ほうかべ) 摂津

天正七年(一五七九)十二月十六日。泊々部は、「泊々部一(波々伯部)」とも書く。撰津泊々部(伯々部)氏は、丹波の波々伯部(ははかべ)氏の別流であろうか。「公記」には、「ホラカベ」とルビがある。荒木村重の撰津一職支配とともに、その麾下になったか。天正六年(一五七八)十月、村重が信長に謀反すると、これに従って有岡城に籠る。

翌七年十一月十九日開城して、荒木久左衛門から寄衆が村重説得のため尼崎に赴いた時、留守役として女たちの警固を務める(池田本)。結局は説得に失敗して、十二月、荒木一類の処刑が行われるが、泊々部も十六日に処刑された。年齢は五十歳ほどであったという(公記)。

年代は不明だが、八月十日付、四宮藏人宛ての、「波々伯部左衛門元継」という人がある(勝尾寺文書)。同一人か一族か(ほうじょう かわちのかみ) 河守

本文組方見本 (いずれも80%縮小)

参考文献

史料集

増訂織田信長文書の研究(上・下・補遺) 奥野高廣著 一九八八年 吉川弘文館

大日本史料 第十編一〜二十六 東京大学史料編纂所編 東京大学出版会 第十一編一〜二十 東京大学史料編纂所編 東京大学出版会

浅野家文書(大日本古文書、家わけ二) 東京大学史料編纂所編 東京大学出版会 伊達家文書(大日本古文書、家わけ三) 東京大学史料編纂所編 東京大学出版会 毛利家文書(大日本古文書、家わけ八) 東京大学史料編纂所編 東京大学出版会

吉川家文書(大日本古文書、家わけ九) 東京大学史料編纂所編 東京大学出版会 小早川家文書(大日本古文書、家わけ一二) 東京大学史料編纂所編 東京大学出版会

参考文献 所編 東京大学出版会

生没年不詳。河内四条畷の豪族という(信長文書。天正三年(一五七五)頃か、八月六日付判物で、本願寺についての報告の功を信長より褒められている(信長文書)。

芳野宮内少輔(ほうのくいのしょう) 大和宇陀郡宇賀志村の芳野城を本拠とする。奈良県宇陀郡史料。早くから伊勢の北畠氏に属しており、北畠家の家督譲渡に伴い、信長の麾下になった。「勢州軍記」によると、他の二家の沢家・秋山家が一千の大將なのに対し、五百の大將だったという。

(天正三年)十一月十三日、三人衆して春日社領の宇多郡宇賀志莊を押領し、原田(搦)直政たちより詰られている(春日社家日記。金子拓「春日社家日記のなかの織田信長文書」所収)。

天正十年(一五八二)六月の伊賀国衆蜂起の時、信雄の手よりその鎮庄のため遣わされた(勢州軍記)。

同十二年の小牧陣の時、信雄を離れて秀吉に味方。戦後、松島城主となった蒲生賦秀(氏郷)の助力とされた(勢州軍記)。

天正十二年九月現在、三人衆合わせて一万三千石である(羽柴秀吉知行目録写、三重県史料)。

資料編近世上)所収。

牧庵(ぼくあん) 生没年不詳。姓は不明。信長の側近か。天正五年(一五七九)三月十日、北条氏の使者にあって、正使である滝川一益に添えられた(公記)。

星野左衛門(ほしの さえもん) 撰 生没年不詳。荒木村重の足軽大將。村重の謀反して有岡に籠城していたが、天正七年(一五八〇)十月、同僚の中西新八郎に城内で謀反、落城せしめた(公記)。その功によって赦され、翌八年(一五八二)に撰津の支配者になった池田恒興として付属された(公記)。

細川昭元(ほそかわ あきもと) 良(ほそかわ のぶよし) 山崎 永祿六年(一五六三)〜正保二年(一六四一)十二月二日。

熊千代、与一郎、越中守、侍従、参議。剃髮号三斎宗立。姓は長期「長岡」。

(元服まで) 藤孝の長男。良質史料に登場する『言継』の元龜二年(一五七二)四月条。この時は松尾社での能楽に出ている。当時九歳であった。

吉川弘文館

〒113-0033・東京都文京区本郷7-2-8 [URL] http://www.yoshikawa-k.co.jp/ 電話 03-3813-9151(代表) / FAX03-3812-3544 / 振替 00100-5-244



申込書

『織田信長家臣人名辞典 第2版』を( )冊注文します。

978-4-642-01457-1

お名前

お電話

ご住所

〒

●吉川弘文館 特約書店名